

阿賀町荏胡麻(エゴマ)プロジェクト

【キーワード】

エゴマ	6次産業化	獣害(猿害)作物	栄養機能性成分	α -リノレン酸
-----	-------	----------	---------	-----------------

■概要

阿賀町では獣害(猿の被害)が著しく耕作放棄の一因ともなっていたが、エゴマは猿の食害を受けないことから、町ではエゴマの栽培を推奨している。今回、我々は町からの委託により、搾油用エゴマの効率的栽培方法の検討(露地、慣行ハウス、水耕栽培)、エゴマ油の α -リノレン酸含有量分析ならびに、生食用エゴマ葉、搾油粕などの未利用部位の栄養機能性の分析や加工食品への展開を行っているので状況を報告する。



■詳細

- ・エゴマ油は主成分である α -リノレン酸(青魚の油、 ω -3脂肪酸)の中性脂肪低減効果などの栄養機能性がマスコミで喧伝され、店頭から商品がなくなるほどの状況となっている。
- 一方、エゴマは猿が食害しないため、阿賀町では従前から猿害対策作物として栽培を推奨していた。
- ・エゴマ油の α -リノレン酸だけではなく、現在はほとんど利用されていない葉や花芽、搾油滓(脱脂エゴマ)にもカルシウムなどの無機成分、ロズマリン酸などの抗酸化性ポリフェノール、食物繊維などが豊富に含まれることが知られているので、パウダー化などの加工を行い、焼き菓子や麺などの試作、商品展開を図る。



エゴマLED水耕試験栽培

○競合研究に対する優位性

- ・農学部(施設園芸)、食品化学(栄養機能性)、食品加工などの専門家でチームを組み、多面的、複合的な取組でエゴマの利活用の指針を提示、具現化する。

○想定される実施例、応用例

- ・現地の風土(豪雪地域)に合わせた効率的エゴマ栽培マニュアル
- ・地域の熱資源(温泉、地下水など)を活用した施設による生食用エゴマ葉、花芽の通年栽培と出荷
- ・エゴマ油、エゴマ未利用部位(葉、花芽、搾油滓等)の栄養機能性を活かした食品、商品開発

○今後の課題、展望

- ・エゴマ栽培農家の拡充と地元企業・団体による6次産業化とエゴマ商品開発、販売ルートの確立



試作エゴマパイ

■応用を期待する分野

- ・地域の未利用資源の再発見と活用による地域振興、集落持続性の確保
- ・再生可能自然エネルギーを活かした施設園芸による地域固有特産作物の通年栽培

本技術の問い合わせ先

新潟大学 地域創生推進機構

TEL:025-262-7554 FAX:025-262-7513 E-mail:onestop@adm.niigata-u.ac.jp